

協定書に署名する西良院長（左）と
武中院長＝徳島市の徳島大学病院



災害時の医療支援強化

徳大病院、鳥取大病院と協定

徳島大学病院（徳島市）は、南海トラフ巨大地震などの大災害に備え、鳥取大学医学部付属病院（鳥取県米子市）と医療の連携に関する協定を締結した。徳島、鳥取両県の相互応援協定を踏まえ、医療面での支援体制を強化する。

協定書によると、どちらかで災害が起きた場合、もう一方が医療スタッフや医療物資を現地に派遣するとともに、被災地の患者を受け入れる。平時も両病院が協力し、患者の搬送訓練や災害教育に取り組むなどして災害医療技術の向上に努めるとしている。

徳島大学病院で10日に締結式があり、同病院の西良浩一院長と付属病院の武中院長が協定書に署名した。西良院長は「両県の災害拠点病院が直接結びつく意義は大きい。県民に安心感を持つてもらえるのでは」と語っており、武中院長は「両県が同時に被災する可能性は低く、災害時はトップ同士が話し合っ迅速に動けるようにしたい」と述べた。

（山口和也）